

## 知事広聴：平太さんと語ろう

## 発言要旨

日時：平成22年8月27日（金）13:30～15:50

会場：森町文化会館「ミキホール」

## 1 出席者

- ・森町においてさまざまな分野で活躍中の方 6名(男性4名、女性2名)
- ・一般傍聴者 約150名

## 2 発言意見

No	項目	県関係部局
1	優良農地の継承と農業の担い手育成活動	経済産業部 みかん園芸課 経済産業部 農業振興課
2	学校を通じての静岡茶の発展	経済産業部 茶業農産課 教育委員会 学校教育課
3	天竜浜名湖鉄道遠江一宮駅に賑わいをつくる	文化・観光部 交通政策課
4	オートバイを使った地域振興	経済産業部 地域産業課
5	子育て環境の整備	健康福祉部 子育て支援課
6	森町の医療環境と問題点	健康福祉部 地域医療課
7	看護師不足解消への提案	健康福祉部 長寿政策課
8	天浜線の存続	文化・観光部 交通政策課
9	浜岡原子力発電所と太田川ダムの利用停止を	危機管理部 原子力安全対策課 交通基盤部 砂防課
10	子育て環境の整備を希望	健康福祉部 子育て支援課
11	医療施設の整備について	健康福祉部 医務課

## 3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 優良農地の継承と農業の担い手育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの住む森町南部の農業について説明する。冬にレタス、その後トウモロコシ、お米、秋から次郎柿とレタスが始まるという三毛作を行っている。その三毛作の中でもトウモロコシがメインになっている。</li> <li>・ レタスについては、昨年30万ケースを切ってしまったので、今年は「取り戻せ30万ケース」を目標に頑張っていくが、中でも農協青年部が一丸となり、1人5アールずつでも増やそうと取り組んでいる。</li> <li>・ 青年部員は30人おり、担い手はだんだん増えている。担い手が増えて、一緒に農業をできるような環境をつくってほしいと、青年部で頑張っている。</li> <li>・ 今日午前中、青年部の主催で森町農業小学校という活動を行った。今年12年目を迎えるもので、小学校の子どもたちが農業を体験し、大人になったときに、「ああ、あのとき農業やったな」「農業やってみようかな」と思えるような活動を今後も引き続き行いたいと思っている。</li> <li>・ 南部には優良農地がたくさんある。この優良農地を10年先、20年先、30年先とこれからずっと残していただきたい。</li> <li>・ 6月にトウモロコシが森町の各直売所で販売がされるが、知事にも県内外へセールスをよろしくお願ひしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森町で有名な農産物は、トウモロコシと柿、それから梨の三つかと聞いていたらレタスもすごい出荷量のように、宣伝するものが増えた。これまで中村次郎の次郎柿は、相当宣伝しており、トウモロコシも行く先々で言っている。PRは任せてほしい。</li> <li>・ 優良の農地を残すようにとのことだが、これは当然である。</li> <li>・ 県下全体の農地のうち2割弱が耕作放棄地であり、持ち主は都会へ出ていって、誰のものかもわからないというような状態になっているものが耕作放棄地全体の1万2000ヘクタールのうち6,000ヘクタールにも及んでいる。放っておけば土地が荒れていくから、これを止めなくてはならない。そのためには担い手が大事で、ここではそういう人たちが増えているということであり、非常に優秀である。</li> <li>・ 優良農地として、ふさわしい活用をどのようにしているかということ、現場を見に来た人に見せることのできる、農地の使い方の学校が必要である。</li> <li>・ 農業は書物だけで勉強するのではなく、生きた大地や、その大地を活用している人の技に学ぶことが必要であるが、伝える側も体では知っているが、なかなか言葉では説明しにくいところがある。それを工夫し、体でわかっていることを一つ一つ言葉で子どもたちや、青年たち、これから農業をやってみようと思っているいろいろな社会の方々に伝える。そういう広い意味での農業の先生というような役割も持ってもらえればと思う。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>2 学校を通じての静岡茶の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校を通じての静岡茶の発展につながる提案を2つさせてもらう。</li> <li>・ 一つ目は、県内すべての公立学校にお茶を寄贈し、学校で1年中おいしいお茶を飲んでもらう取組を県としてスタートしてほしい。</li> <li>・ 県下の子どもたちにお茶のおいしさを知ってもらい、学校では存分にお茶が飲めるようにして、静岡茶が好きな若者を積極的に育てていければと思う。</li> <li>・ 森町茶商組合でも町内の幼稚園、小学校、中学校に1年を通じお茶を寄贈している。一番茶で350キログラムの茶葉が必要だが、全県となれば、もっとずっと大きな量になってくる。</li> <li>・ 二つ目は、日本茶インストラクターによるお茶の入れ方教室を県内の全ての公立学校で開催してほしい。</li> <li>・ 森町茶商組合では小学校を中心にお茶の入れ方教室を開催し、煎茶はもちろん、ほうじ茶、粉茶、玄米茶など、それぞれのお茶のおいしい入れ方を教えている。茶商組合内の日本茶インストラクターが入れ方はもちろん、静岡のお茶の歴史やお茶の栽培から製造、流通までも説明しており、知識としても大変勉強になると思う。</li> <li>・ 特に入れ方は一度修得すれば一生使えるので、本人にとっても有益である。高校生のときに体験するようになれば、社会人として、また静岡県出身の大学生としてすぐに自信を持って活用できる。</li> <li>・ 昨年は県下で小学生から社会人まで5,040人が受講している。県全体でそのような取組を実践できれば、数年後にはお茶好きの若者が県内各地から全国へ移動し、いろいろな場面で静岡県出身だからお茶の入れ方は上手だと活躍している光景が繰り広げられるだろう。</li> <li>・ 静岡県の若者にまずお茶のことをも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インストラクターの資格を持った人たちが生きたお茶の楽しみ方、味わい方を子どもたちに教える教室を開くというのはいい考えだと思う。</li> <li>・ お茶を寄贈にするか、あるいはほかの方法にするのがあるが、給食を一つの軸にして静岡茶の味わい方を同時に身に付けてもらう、そういうやり方はいいと思う。</li> <li>・ 今日のお茶の器は森山焼であるが、通常こういうものは美術品なので使わない。大事に蔵にしまっておくことになるが、それでは存在しないも同然であり、器が泣いてしまう。</li> <li>・ 誕生日に森山焼を贈るようにすれば、茶碗から皿、器まで揃ってくる。それは美術的作品なのできれいであり、貴重品であるため物を大事にする態度も育まれる。</li> <li>・ いいお茶は地元の良いお茶碗で飲む。森町には農作物だけでなく、こういう工芸品もある。</li> <li>・ 森町のレタス、次郎柿、梨、トウモロコシは人の手が入り、美しい水、美しい景観が育んだもので、これは、農芸品（農業芸術品）である。</li> <li>・ ここは農芸品、工芸品が生活の中に生きている。それを新東名のパーキングエリアで売ると良い。いいものをいただき、いいものを使う。使って、それを使いこなす。ものづくりの名人はものづくりの名人である。使いこなせる人たちがいるとその格が高くなる。大洞院の墓や、小国神社の品の高さはこちらの人々の心の形を表わしている。</li> <li>・ 2～3年が勝負である。森町のけんか祭りのように生きのよさで進めて、一歩でも二歩でも踏み出して欲しい。私もできる限り応援する。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>っと知ってもらい、お茶を好きになってもらうことが何より静岡茶の宣伝となるし、お茶文化の継承にもつながると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぜひ、県下すべての公立学校を対象とした静岡茶育成事業にしてほしい。</li> </ul>	
<p>3 天竜浜名湖鉄道遠江一宮駅に賑わいをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠江一宮駅に賑わいをつくろうとグループを作りボランティア活動をしている。</li> <li>・ 今年天竜浜名湖鉄道は二俣線の時代から数えて70周年を迎え、この節目に遠江一宮駅に賑わいをつくるにはどうしたらいいかと考えていた。駅や天浜線について地域の方と話をする中で、おもしろくなりそうなイメージが膨らみグループをつくった。</li> <li>・ 皆がそれぞれ駅だけでなく、一宮や森町がこうなるといいという夢を持っているが、まず一宮駅に賑わいをつくるにはどうしたらいいかと話しあった。</li> <li>・ 天竜浜名湖鉄道は、車の普及や少子化、人口減を原因とした利用者の減少でとても厳しい経営状態にある。利用者を増やすキーワードは8つある。</li> <li>・ 1点目は「文化を運ぶ」で、この鉄道は、昔は軍事目的でつくられ、軍事関係が主体の運送をしてきたが、その後、人・物資の輸送となった。これからは人や物資だけでなく、文化や情報を運ぶことが大切である。</li> <li>・ 2点目は「歩いて暮らせる町」で、鉄道沿線にそれぞれ駅を中心に歩いて暮らせる町ができれば、高齢化を迎える時代にふさわしく、鉄道を使って移動することが大事な要件になる。</li> <li>・ 3点目は「里山美術館」で、天浜線沿いには湖、川、山、里山、農園があり、非常にきれいである。</li> <li>・ 4点目は「豊かな食文化」があるということである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天浜線の社長は、1年ほど前元ホテル総支配人から替わった方で、元の職歴からサービス精神に溢れており、お客様にいかに快適に電車に乗っていたかかというのが哲学である。そこに遠江一宮駅を軸にして、天浜線文化をつくりたいという方が出てきたので、これは二人三脚ができると思う。</li> <li>・ 鹿児島空港と富士山静岡空港が飛行機で結ばれたことを機会に、鹿児島と熊本を走る肥薩おれんじ鉄道というローカル線と兄弟関係を結んだ。そして、鉄道全体を文化にしたいということで交流がはじまっている。南九州と東海は魅力が違うので互いを魅了し合う仲ということである。</li> <li>・ 里山美術館と言われたが、そのままが美術館である。春夏秋冬の景観自体が美的である。人が住んでいる生きた景色で、森町全部がまるごと美術館である。</li> <li>・ あるがままが良いということは、自然体が良いということである。あるがままに美術館的発想で、人に見られて、お互いに気持ちが良いようにつくるということである。</li> <li>・ 例えば自分の家の屋根をどういう色にしようが関係ないが、外から見ると公共的である。それなら垣根を統一するとか、屋根瓦はこういう色にするとか、お互いに美術館的に見えるように、引き合うようにすると良い。森町としてのまとめ、コミュニティ、町の人の心、それが形になる、色になる</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5点目は「あるがままに」で、不足していることを嘆くよりも、あるものを生かしていく心、この取り組み方が大切である。</li> <li>・ 6点目は「古くて新しい」、ということで遠州一宮の駅舎も大正15年から今年で70周年となった。先日駅でコンサートを行ったが、それに備えてグループの方、地域の有志の方の協力で、駅の外壁をすべて水洗いし、塗装をしたが、見違えるほどリニューアルされた。古いものでも少し手を入れることによって、私たち見る側の気持ちが新しくなる。</li> <li>・ 7点目は「個性に富む農林水産物」で、自然に恵まれている天浜線沿いにはいろいろ農産物、水産物がある。これを知っていただくために遠江一宮駅の前に待ち合い朝市を展開している。月に一度の活動であるが、少しずつ皆さんに知られてきている。</li> <li>・ 8点目は「もてなしから町愛へ」である天浜線の特徴から県外、地域外の方が訪れることが多いが、ただお客さんとしてもてなすだけではなく1点目から7点目までのキーワードを進めることで、何度も訪れてみたい、ここが好きだと言ってくれるようになれば、町を愛する気持ちにつながっていく。</li> <li>・ 今始まったばかりであるが、このキーワードは天浜線の各駅に共通するのではないかと思う。まず遠江一宮駅をモデルとして進めていければと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とすばらしい。そうすれば森町まるごと博物館ができる。</li> <li>・ 古くて新しいということでは、森山焼も志戸呂焼の伝統を生かしつつ新しくしているものである。そういうように脱皮することが大事ある。</li> <li>・ ここには1450年の歴史が積み重なって、こういう景観がつくられ、小京都ともいわれると同時に現代的なものもある。すばらしい病院もある。新しくつくり上げたものもあると同時に、すべての景観、生活、暮らしの立て方にしっかり伝統があるので良いと思わせる。本物の日本をここからつくっていけないものかということでこの天浜線文化を生かしていくことができると思う。</li> </ul>
<p>4 オートバイを使った地域振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県の一つの特徴であるオートバイに関わる会社であり、オートバイを趣味で楽しむライダーたちにカスタマイズ（部品を替えて自分だけのオートバイをつくること）や用品など、いろいろなものを提案する企画開発販売をしている。</li> <li>・ デイトナという社名は、アメリカのフロリダにある「デイトナ・ビーチ」の地名からとった。そこは50年も前から全米のオートバイ好きが1週間か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロリダのデイトナ・ビーチにライダーが50万人も集まると知り、オートバイの日本におけるふるさとで、スズキ、ヤマハ、ホンダのある静岡県、遠州でもできるはずということで、いろいろなことに取り組んでおられ非常に実践力がある。しかもオートバイの下請の人たちが仕事がなく困っているから、その人たちを励まそうというのも良い。</li> <li>・ 買った人、使う人がハッピーになる。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>ら2週間集まりお祭り騒ぎするバイク、モータースポーツの聖地である。思い思いにカスタマイズしたオートバイで集まってきて、仲間で楽しんでいる。そういう環境に日本もなったらいいなと思いデイトナという商品ブランドを使いながら社名にも使った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極端に言うと、趣味でバイクを楽しむ世界のライダーをカスタマイズでわくわくさせるというのが僕らの使命だと思っている。</li> <li>・ 森町の方と一緒にに行くこととしては、森町静岡茶ミーティングを自分たちのテストコースで年に1、2回行っている。5月には全国から、1,000人ほどライダーが来てくれて、1日茶娘と一緒に新茶を味わいながら楽しんだ。</li> <li>・ 森町では普通のお茶が、全国の人に飲んでもらうと、「わあ、お茶おいしいな」とか「こんなおいしいものあったの」と言って喜んでもらえる。こういうことを通じて自分は静岡を宣伝していきたい。</li> <li>・ 会社はジャスダックに上場しているが、株主への優待品として、静岡のお茶、浜名湖のシラス、ウナギ、袋井のクラウンメロンといった土地のものを、静岡はこんなおいしいものがあるというPRのつもりで送っている。</li> <li>・ 静岡県の西部地方にはホンダ、ヤマハ、スズキがありオートバイに関連する下請け会社がとても多い。車はエコカー減税などいろいろな政府の支援で、販売が最近持ち直したが、オートバイは残念ながらそういったことがなく、車両販売価格も年々落ちている。こうなると、地域の産業にも影響が出る。</li> <li>・ 車もエコだが、バイクはもっとエコで、人一人が移動するにはミニマムの乗り物である。ぜひオートバイの有用性を知事にいろいろな機会でもPRして欲しい。</li> </ul>	<p>このように人のためになって、人を喜ばせて、かつそのつくり手も喜ばず。使い方を変えれば、つくり方に激励を与えるという。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使いこなすことと、ものづかいの名人になるということは、自分が最もいい形で使うことで、これが本当に快適な使い方だと人に勧められる。そのようにつくり手は、使い手のことをよく考えてつくるということになり、使い手とつくり手が一体になる。</li> <li>・ 使い手の立場に立ち、オートバイをこのようにして生かせる。この土地の力を生かせる。この場の力を上げられると言っている。いろいろなイベントの場に森町がなれると言っている。是非やっていただきたい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>5 子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三倉という中山間地域に住んでいる。</li> <li>・ 子どもを4人育てているがどんどん子どもの数が減っている。小学校は全校で20人、幼稚園は3学年1学級の7人で年中の娘に同級生はいない、3歳の息子もいるが近所に子どもはいない。</li> <li>・ 自分がここに住むようになってから、私の地区には新しいお嫁さんは1人も来ておらず、引っ越していく方が多い。近くに仕事をする場所がない、通うのが大変ということで皆出ていくようである。</li> <li>・ 託児所はもちろん、幼稚園の延長保育もなく、小学校の終わった後の放課後児童クラブもない。児童館は役場の近くにあるだけで、車で20分ぐらいかかってしまう。</li> <li>・ 近所に友達の家がないので、子どもは自転車で出掛けるが、坂が多いため、帰りは1人で帰ってこれない。どの子も帰りは親が友達の家まで自転車を乗せられる車に乗って迎えに行っている。</li> <li>・ 中学生の子も自転車通学で、ほとんどの子が途中まで家の人に迎えに来てもらっており、1人では帰ってこれない。その迎えを待っている時間も道の隅の方に自転車を置いて、薄暗くなくても1人で待っている状況である。</li> <li>・ 学童保育というように対象を決めず、児童館のように、中学生、小学生、幼稚園児、誰でも遊びに行け、常に1人でも大人の目がある場所を確保して欲しい。そうすればお迎えの時間に1人で待たずに済むと思う。必ず近くに大人の目があるところが一つできれば、友達の家に遊びに行くような感覚で、遊びに行ける場所ができてとても良い。</li> <li>・ そういう場所が確保されれば、子育てする環境はとても良いと思う。若い家族だけでも森町の奥に住んでみようと思うのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもにもう少し友達を持てるような学校環境があったら良いというのは、そのとおりだと思う。だんだん町に人が出ていき、山の方に人が少なくなっているというのは日本全体の現状である。</li> <li>・ 子どもが家に帰るときにどうすれば良いか。児童館のようなものをつくり、大人の目がきちっとあるところに子どもがいることで、かなりの部分が解決できると解決策を言われた。友達もでき、親も安心、子どももそこにいれば1人寂しくしていることもなくて済む。これがどの程度可能なのか、ぜひ森町にも考えていただければと思う。</li> <li>・ 住むには不便であるが、子育ての環境はとっても良いところであると、こういうところで育つことの良さを親として思っている。そうすると、この環境をどうすれば多くの人に知ってもらえるかである。</li> <li>・ その解決策として、森を活用する仕事を増やせばいいと言われたが、まさにそのとおりだと思う。</li> <li>・ 私はこの点について、まだ十分に具体化はしていないが、住まい方を変えたいと考えている。</li> <li>・ 日本では1955年に日本住宅公団が2DKの生活スタイルを提供して以来マンションが普及し、今、3世帯に1世帯がマンションに住んでいる。</li> <li>・ しかし、これでは本来家庭にあるはずの庭が無くなっている。家と庭が一体の方が良い。住まいと庭が一つで家庭である。東京ではそのような家に住めないが静岡県では住める。天浜線沿線であればできる。借地借家で100年間保障の制度をつくれれば、安心できる。そうすれば不動産に多額の費用を使わず、人生のある段階でそういうところに住める。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が森町に住み始めたころよりも山の仕事はなくなっていて、そのため町の方に人が出ていってしまっていると聞いている。</li> <li>・ 山の中の仕事、木の管理といった仕事をもう少し増やしてもらい、子育てをする環境が多少整っていれば、少し不便を感じるけれども、環境のいいところに住みたいという人が増えるのではと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必ずしも都会に住むのが良いのではない。交通の便は不便かもしれないが、それなりの公共交通機関があり、都会に出られるような場所を提供したいと思っている。これを天浜線を活用した形で、案を練っている。</li> <li>・ 森を使うには、木を使うことである。県内にはすばらしいスギやヒノキがあるが、使われないまま放置されている。</li> <li>・ 世界中では森をつくりましようと言っているが、日本では森が放置されているので森を使わなければいけない。</li> <li>・ 森町のパーキングエリアができる際には、現代和風で春野、天竜、あるいは大井川にある本県の県産材を使うようお願いしたい。これからの公共建築は、県産材を使わなければならない。</li> <li>・ そうすると運搬費がかかることになるが、運搬費を捻出するために、森を使う企業を支援するサポーター制度を設けている。</li> <li>・ 毎年 70 万立米の木が使われずに蓄積され、放置されている。また、シカやイノシシなどが森を食い荒らしているため、それを捕獲する必要があり、その肉を人やペットの食用に利用することができる。発言者の提言は現実性があるのでこのような方向で考えていきたい。</li> <li>・ ハイカラな生活は町だけではない。花畑や、小動物と一緒に生活できる方がハイカラだ、としていきたい。そのためには人を呼ばないといけない。オーナー制度で、畑だけ貸すのではなく、使う人の立場で考え、トイレ、更衣室、シャワールームをつくるようにする。そしてそれを全部県産材でつくるようにすると、好循環するようになる。</li> <li>・ 世界中が森こそ地球の財産だという方向に向かっているが、ここにはそれがある。ここに地球の未来があるぐらいのつもりでやれる。そうすると人が集まることになる。</li> </ul>



出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>6 森町の医療環境と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森町を取り巻く医療環境から見える問題と、森町病院の現状で私たち看護師の視点から見える問題について話す。</li> <li>・ 森町は二次医療圏の中では中東遠に属している。人口 10 万人に対する医師の数は県内で一番少ない。開業医の数は診療所が6つぐらいで医師の数は一番少ない地域であり、慢性的な医師不足という現実がある。</li> <li>・ しかし、医師がいないから何もできないというのではなく、当院はずっと地域医療を目指してきており、通常的一般診療以外にも通院ができない方の自宅に医師が訪問して診療を行う訪問診療を誇りを持ってやっている。また、訪問看護も実践しており、24 時間救急体制も森町、春野町、ほかの地域の受診も受け入れている。医師不足の対応策として、県から要請を受けて静岡家庭医養成プログラムを今年立ち上げている。これは医師不足の解消のために、今後自分たちの地域には必要と考えている。</li> <li>・ 一人の医者がどれだけ救急をとっているかということでは、森町病院が断然トップである。院長は、経営方針を地域に根差すこととしているので、担当の診療科がない場合を除き救急車は断らずとにかく引き受けようということで頑張っている。しかし、医師も、看護師も人手不足であり、頑張るだけでは限界がある。</li> <li>・ 人手不足は、まだまだ続くと思うが、自分たちは目の前にいる生命を脅かされている患者を助けなければいけない。しかし、そうはいつでも頑張っているスタッフも助けなければいけないということもあり、何か支援を望みたい。</li> <li>・ 森町は南北に長い地形であり、北部はほとんどが山岳地域である。南地域に掛川森町病院があり、その周囲に開業医がそろっていて、福祉施設、老人保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院長が救急で患者が来たときには基本的に引き受けるという哲学を持っており、たらい回しをしないとしているが、無理をすると、医師や看護師自身が病気になってしまうので、このこととの案配ができる程度に、原則全部救急患者を受け入れたいと思っている。だから、その手当てをしてくれというのは、そのとおりだと思う。</li> <li>・ 人間は生老病死の中で寿命は必ずくるもので、そのときに幸せに安心して生きて死ぬようでない、コミュニティとして良くない。だからコミュニティの中、生活の中に医療をおろしていきたいと言う、これがいい。</li> <li>・ 退院した後、トイレ、台所などの段差で転んでしまわないようにどうすれば良いか、デザインを考えるには静岡文化芸術大学の学生に協力してもらえば良い。</li> <li>・ 生活の中に人を帰していくという、出された問題点は非常に深刻であり、しばらく我慢してもらうことがあるかもしれないが、解決方法は見えているので、しっかり問題を受けとめて、なるべく早く解決できるように努力していきたい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>健施設、グループホームと、すべて南部の方に集中している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森町の高齢化率は 27.4%と言われており、県平均と比較して 10 年先をいっている。そして、森町病院の入院患者は現在平均年齢 87.2 歳である。</li> <li>・ そのような現状で看護師として、地域住民のためにできるのは退院支援の強化である。</li> <li>・ 病気が治って帰るといっても、高齢の方が一度病気になると、家に帰って自立できる人は非常に少ない。一人暮らしや、老老世帯、認知症の方は、病気が治っても自宅で生活していくにはさまざまな問題を抱えている。</li> <li>・ 森町の奥に行くと古い家屋であり、上がりかまちが高かったり、トイレ、お風呂、食事といった日常生活の手配もしなければいけない。一度家で転んで怪我をすれば、また転ぶことも考えられる。二度と転ばない家屋にするなど病院から退院するときにはあらゆる支援、サービス、調整をして帰している。病気が良くなったから、すぐ退院ではなく、地域でその人らしく生活できる環境を整えて退院するのが自分たちの役目で、地域、行政との連携を強化しなければならない。</li> <li>・ また、サービスの格差が出ている。同じ介護保険料を払っているのに、山間部にいることを理由になぜサービスが受けられないのかと言われるが、これは自分たちの切実な問題である。どんなに退院支援を頑張っても、引き受ける受け皿がないと、地域に戻る手段がなくなってしまう。その辺を行政と連携して取り組むことがすごく大切になってくると思う。</li> </ul>	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>7 看護師不足解消への提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護師不足が問題になっている。看護師が就職して、仕事が自立できるようになると、ちょうどその同時期に結婚、出産を迎えるようになってしまう。働き盛りのときに、子育てで仕事ができないことになる。</li> <li>・ 看護職という女性が非常に多い職場では、子育てと仕事の両立が最大の課題である。学童保育のような子供を見てもらえる場所があれば、看護師不足を改善できるのではないかと。すぐに何かできるわけではないが、考えの一つに入れて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事と生活がうまく調和できるようにするのがこれからの社会の課題だと言われている。日本は全体として男社会なので、女性に対する配慮が十分でないのが現状である。そこで、人類の半分は女性なのだから、お互い協力していく社会をつくっていかうということである。</li> <li>・ 少子化解消には、産みやすい、育てやすい環境をつくれれば良いと考えている。</li> <li>・ 2～3人は産みたいと思うのが普通の女性の気持ちである。現状は平均2人に達していないので、2人を超えるようにしたい。そのためには、地域で育児についての協力者がいることが必要である。</li> <li>・ 子育てを行っている若い母親にとって、1番信頼できる人は自分の母親である。そのように、地域にいる子育て経験者のお母様方で若いお母様方を支援する気風がつくられ、保育園の若い保育の先生だけでなく、地域のお母さん経験者の力が加わると、子育てが大分楽になるのではないかと。</li> <li>・ いろいろ工夫して、女性が産む子どもの人数の平均を2.07としたい。そうすれば、いろいろな人が森町を見に来るようになる。</li> <li>・ 新東名にインターができる2～3年が勝負である。最初に来た人がリピーターになるかが大きなポイントである。</li> </ul>
<p>8 天浜線の存続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天浜線はこれからどのような形にすれば存続していけるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天浜線は無人駅でもちゃんと乗車代が支払われている。それは地域の信頼で成り立つローカル線だからである。</li> <li>・ 乗客の皆様方の声を聴く意見箱をつくるのはどうか。</li> <li>・ 天浜線は遠州鉄道がやっており、遠州鉄道は遠鉄バスもやっており、バスには空港から浜松への直行便がある。遠州鉄道株式会社が経営するものは全部一括し割引券を発行し、乗客を増や</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>す方法もある。将来性がある話である。</p>
<p>9 浜岡原子力発電所と太田川ダムの利用停止を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜岡原子力発電所が操業中に東海地震の地震動のために制御不能になると最悪の場合チェルノブイリ級の事故が起こる可能性がある。そうすると県民の多くがここに住めなくなるだけでなく、首都機能が壊滅する恐れがある。東海地震が来るまでは浜岡原子力発電所の操業を停止してもらいたい。</li> <li>・ また、太田川ダムについても地震により大きな被害を受ける危険性があるので、これも東海地震が来るまでは、ダムに水を貯めないで欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今 15%から 20%近くの電気を原発に頼っている。本県における自然エネルギーは全電力量の 4.8%であるが、何とか日光、地熱、温泉熱にかえたいと思っている。そのためにはまだ時間がかかる。イノベーション(技術革新)が要る。原発は必要悪である。ただし安全第一に、安全でなければ絶対操業は再開できないようにしていきたい。</li> <li>・ 原発には功罪があるので、そのバランスを考える。しかし必要悪として使わざるを得ない状況というのが世界中の現実である。</li> <li>・ 原理的にどちらかとは、なかなかいかないところがある。難しい問題を提起してもらった。</li> <li>・ 太田川ダムについても同じである。問題意識、危機意識、人を思う意識はよく分かるが、ダムの持つ功の面もある。対処措置をとっているという説明もあるから、納得してもらい、協力して欲しい。</li> </ul>
<p>10 子育て環境の整備を希望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもを育てていく安心した環境があれば、女性は本質として産み育てていきたいと思う。そのような静岡県にして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心して子育てができる環境を何とかつくっていききたいと思うので、具体的に提案してもらえれば、良い環境づくりに役立てていきたいと思う。同じ気持ちでいる。</li> </ul>
<p>11 医療施設の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての病院に高価な設備を備えるのではなく、問診中心の病院と、お金をかけた医療検査中心の病院に分けて整備して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械には原因を突き止められるという問診ではわからない良い面があり、二者択一ではなくて両方必要である。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 皆さんの話を聴いていて、前向きな話が多かった。厳しい問題点があっても、解決策がちゃんと提示されている。課題が見え、解決策が見えているということは、もう半分解決したに等しい。あとはやる気である。</li><li>・ 出生率増加のために、中学3年までは入院費を無料にしているが、いろいろな形で県としてできることはやっていきたい。</li><li>・ まずモデル地区をつくりそこが引っ張っていく。森町にはそういう地域として期待している。天浜線についても悲観的な気持ちは持っていない。</li></ul>